

異

説

通

説

華やかなパリとその裏側

表と裏

フランスに、パリに、どんなイメージをお持ちだろうか。ルーブル美術館やエッフェル塔といった観光地、ミシュラン星付きフレンチ、マルシェに並ぶ新鮮な肉、野菜、チーズ、おいしいボルドーやブルゴーニュ地方のワインなど挙げていったらキリがない。

それにも増してパリが人を引き付けるのは、整った歴史的な



秋に訪れたブルゴーニュ地方のワイナリー（筆者撮影）

街並みがきれいに保存され、歩くだけでも雰囲気を感じられるからではないだろうか。ただ、そんな華やかさは、さまざま不便の上に成り立っている。

水難のパリ。駐在をすれば一度は体験するのが、自宅での水漏れ被害である。パリの建物は総じてとても古い。新しいの基準が戦後か否か、ということにそれが表れており、ナポレオンのころといったもそれほど昔ではないという感覚が少し

不思議な感じもする。

もちろん古い建物でもリノベーションをしていけば表は綺麗に保つことができる。しかし、見えない部分はどんどん劣化してしまふ。

そして、今を暮らすわれわれは水漏れに直面するわけである。私も見事に引っ越し一カ月もたたずに水漏れの被害に遭ってしまったが、二度目はないことを祈るばかりである。

夏も冷房なし

パリでは景観保護のために、洗濯物を外干しすることが禁止されている。これは乾燥機があることが多いパリの家ではまだ致命的ではないのだが、一方で最近問題になってきていることがある。それは冷房が家庭にならないうことだ。

元々、日本に比べれば涼しかったパリでは、各家庭には冷房がないことが多い。一方、近年の温暖化とともに、パリでも夏になれば30度超の日が多く

なってきた。

しかし、景観を大事にするパリ市民が目に見える室外機の存在を許すわけもない。また、そもそも家が古くて建て替えられないので設置が難しいという問題もある。

今年の夏は扇風機がばか売れし、売り切れ続出だったとか。なお、高級ホテルでは、歴史的な建物の壁を壊すことが禁止されていて冷房が設置できない場合もあるようだ。

パリ市民の心構えを

こういった不便を前にパリ市民は不平不満を言いつつも、意外とそれを自然と受け入れているところがある。日本人だったらライライラしてしまうことでも仕方がないで終わることもしばしばだ。こちらで暮らしてみても、心構えはパリ市民を見習うべきと思うようになった今日この頃である。

（国際協力銀行 パリ駐在員

事務所駐在員 渡邊 拓也）